長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１３６

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１１月２４日(金)

【雑感】働き方改革について思うこと

国を挙げて取り組まれている、働き方改革、これについて私見を述べてみましょう。保護者の皆様も仕事をしながら、働き過ぎや家族との時間の少なさを感じられている方も多いのではないでしょうか。数年前、電通の新入社員自死の問題から、働き方改革は喫緊の課題となりましたね。私もお仕事をさせて頂きながら、身体的な疲れを感じることも多く、そんな時は自宅でのんびりした時間を過ごしたり、趣味に没頭したりすることでリフレッシュしています。家族といる時間というのは、エネルギーの源だと私は思うのですが、いかがでしょう。さて項立てして考えます。団欒の話題にでもどうぞ。

①「忙中閑あり」の自覚が必要

大辞林によれば意味は「忙しい時でも、わずかな暇はあるものだ。」ということだそうです。ということは、忙しい中の僅かな時間を使えば、働き方改革ができそうですよね。違った考え方をするならばこうです。「短時間集中」です。組織でこれを行うならば「短時間集中合意の組織」を作ることです。これを実現するには意識改革が必要だと言えます。意識改革をしなければ、仕事の量が増えても減っても、かかる時間、いや、かける時間は変わりません。時間を区切って、費用対効果、時間対効果を考えて仕事をしたいものです。

②業務内容は減らない→優先順位の確認→無駄の徹底排除

業務内容について、行政も現場も見直しを図っていますが、中々量的なものは減ったと実感できるには至っておりません。では、仕事量は減らないという前提の下に考えるなら、優先順位付けと無駄の排除が必要でしょう。無駄な時間は結構ネガティブ・シンキングに陥りがちで、それは負のスパイラルとなっていくことが多いです。

③楽しく仕事をする

私の個人的な考え方です。「楽しむことのできる人は何でも楽しむ。苦しむ人は何でも苦しむ。」これも、個人の思考によるところが多いですが、私はこれまで、どんな仕事でも受けてきました。新しいことにチャレンジすることは刺激的で楽しいものです。その様な考え方で仕事をすれば楽しい時間となります。逆もそうです。嫌々ながら仕事をすれば、それは苦痛の何物でもなく、ストレスの原因となります。私は以前、上司から「何をすべきか考えろ、考えられないなら体を動かせ、動かないのであれば仕事をやめろ!」と怒鳴られたことがあります。そこで、「こんちくしょう!」と自分を奮い立たせたことを懐かしく思い出します。その頃から、仕事楽しいなぁ、というか仕事の違り甲斐を感じるようになりました。

④力を合わせることは、心を合わせること

先ほど述べた「短時間集中合意の組織」と関係があります。一人の力は微力でも多人数でやれば大きな力になるということです。時間も早く済みます。そのために必要なのは、心を合わせることが重要だと私は思います。

シリーズ「自分を語る」#136

午前2時頃でしたでしょうか。私は校長先生に電話を入れてみました。こんな夜中にかけていいものだろうかとビクビクしながらかけたことを思い出します。でも、2回3回かけても、繋がることはありませんでした。夜中ですから当然だと思っていましたが、実はそうではなく安否確認等のために回線がパンク状態だったのだと今になれば思います。

辺りは当然暗いままです。道が寒がれている事だけ判明しましたが、それ以外の被害状況は解りません。懐中電灯で探るくらいのものです。余震が続く中でも、前震時に比較すると、心の折れ方は凄まじかったのですが、何を為すべきかということだけは分かっていたのでしょう、家族全員、テキパキと動き始めました。私と父は、ライフラインの確認と食料の確認。妻と母は小屋に居住スペースを応急的に作りました。子供達はと言えば、あまりすることもなく、安全なスペースにじっとしていたようでした。夜が明けてからは余震の合間を縫って、学習道具、部活道具、その他貴分に必要な物（殆どがガラクタでした）を小屋に運び出していました。

午前3時頃でしたでしょうか、電話がかかりました。見慣れない名前がディスプレイに表示されました。それが誰なのか解るまでに少々時間がかかりました。実はこの電話の主は、当時のPTA副会長さんでした。芦尾第一小学校着任早々のPTAの運営委員会でしたが、その時に電話番号を教えて貰っていたのです。何があるときは連絡しますという感じだったのでしょう。教頭時代、PTA役員さんとはよく連絡を取りましたが、当時の私はその大切な意味さえも解っていませんでした。やっと職場に関係のある人と電話が繋がった訳です。校長先生も私に連絡を取られていたようなのですがやはり繋がらず、副会長が数回に渡って連絡をしてくれていたのです。そして、やっとのことで繋がったということなのです。すぐ近くに校長先生もいらっしゃったようで、すぐに校長先生に状況を報告しました。この時点で「なぜ、この時間にPTA役員さんと校長先生が一緒にいるの?」という、初歩的な疑問が私の頭を過ぎりましたが、校長先生のご説明で、学校も大変な状況だと聞かされ、納得しました。本来なら、管理職として学校にいなければならないのです。校長先生は地震発生直後、歩いて学校に行かれたそうです。しかし、それよりも早くPTA役員の方が学校へ到着、いやそれよりも早く地域住民が学校へ到着していました。後日談ですが、校長先生も学校到着後は暗闇の中で悪戦苦闘だったという事と、PTA役員さんや地域の方々の底力を感じたとおっしゃっています。

さて、場面を我が家に戻しまして、今日のどこで寝る?という事について家族会議です。今日はやっぱり仕方ないでしょう、てな訳で、車中泊です。とにかく明るくなるのを待つしかありません。私は、両親と妻と交代で車の中で眠るようにしました。手足をゆっくり伸ばせないので、そのストレスを軽減するためです。子供達は狭い車中でも達しく寝ていました。

翌朝は快晴、被害状況が徐々に解ってきました。近所の被害は想像以上でした。大きな通りに出るための道路の確保も大変な作業でした。朝から職場へ連絡し、着任後初の授業参観日にお休みを取る羽目になってしまいました。と言うか、仕事に行けるような状況ではなかったというのが本当のところです。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）